

研究区分	教員特別研究推進（国際共同研究・国際交流の促進）
------	--------------------------

研 究 テーマ	茶の花のハチミツに関する研究 —タイの茶園における採蜜の検討—				
研究組織	代 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	斎藤 貴江子
	研究協力者	所属・職名	茶学総合研究センター ・特任教授	氏名	中村 順行
		所属・職名	Mae Fah Luang University Associate Professor	氏名	Piyaporn Chueamchaitrakun
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	斎藤 貴江子

講演題目
茶の花のハチミツに関する研究 —タイ編—
研究の目的、成果及び今後の展望
静岡県の特産物である緑茶の健康効果については世界に広く知られており、多くの研究結果が報告されている。近年、茶の花に関する研究も行われ、脂肪吸収抑制効果、血糖値上昇抑制、胃粘膜保護作用などが報告されている。また、茶の花をブレンドした茶もすでに市販されている。古来よりミツバチが茶の花を好むことが知られていたが、茶の花のハチミツに関する報告は皆無であった。研究代表者らは茶の花のハチミツの機能性を研究することを目的として、茶の花のハチミツ採取を試みたが、研究に必要な試料を採取することができなかった。これは、ミツバチの活動期と茶の花の開花時期（9月から11月）が一致していないことに起因する。そこで研究代表者らは、通年、養蜂が行われているタイでのハチミツ採取を検討した。タイ北部（チェンライ、チェンマイ）地区では、茶産業が盛んで広大な茶園が存在し、年間を通して茶葉の摘採が行われている。タイ北部においても開花最盛期は年1回であるが、標高が高いため開花時期は遅れ、かつ開花期間は長くなる傾向がある。その結果、年間を通じて開花が観察され、十分な量の茶の花のハチミツ採取が期待できると考えられた。また、タイ北部には放置茶林もあり、研究対象として非常に高い価値を有している。今後も、地域の茶関係者と良好な関係があるMae Fah Luang UniversityのDR. Chueamchaitrakunと共同で、タイでの茶の花のハチミツ採取および研究をさらに発展させていきたい。
タイの茶園
タイの養蜂場